

☆作業日あれこれ

今年は梅雨入りが遅く第2土曜日の6月12日は午後の雨喜びも期待できない快晴です。天気予報では、明日の日曜から梅雨入りになるとか言っていました。一同、作業日和にまず感謝して、新人・岸本君の担当で観察会からスタートです。

草原広場では毎年草はらを維持するためにセイタカアワダチソリなどを抜き



取りますが、抜いたセイタカアワダチソリを地面に放置したら生

き返るのでは?ということで実験です。岸本君はこの日のために2ヶ月前からセイタカの茎と根をそれぞれプランターで栽培していました。そして結果は…根からは再生したが、茎だけなら枯れたとのこと。つまり作業でセイタカを抜いて放置しても、そこから再生はしないということです。かつてこの森のセイタカアワダチソリ退治では鎌で刈り取っていたのですが、現在はそのような作業はしていません。それは刈り取った根本から株立ち状態で背の低いセイタカアワダチソリが何本も再生し、それぞれに花を付け種をまき散らすことになるので逆効果になると考えたからです。この森ではセイタカアワダチソリは引き抜くことが作業の基本です。但しこれでも地中には根が一部残りますので根絶は不可能です。しかし、長年この作業を続けた結果、草原広場などでは秋に黄色い花を見ることが少なくなっています。観察会の次の初は今年も発生したヒノヤガラを観察、葉緑素を持たないラン科のこの植物はナラタケ菌と共生する(寄生ではないかと思うのですが…)のですが、森では至る所にヒノヤガラが発生するにもかかわらず、ナラタケの茸(食菌)を見かけないのです。ナラタケは木を枯らす(吉野のヤマザクラを枯らす)ナラタケ病の茸として林業家からは嫌われており、人工栽培技術があるにもかかわらず禁止されていると解説しました(疑問有り)が、現在では木を枯らす力の弱い種類のナラタケ栽培も確立されているようです。最後に、ヒノヤガラを取り巻くハムシ村御一行様他の皆様には、くれぐれも漢方の生薬になる根茎を掘り出して強壮剤として(実際の効能は胃弱等)利用なさるようにご注意申し上げます。最後は、樹の空洞に作られたコナハツバチの巣を紹介です。草原広場の縁にあるこの

巣、子ども達が刺されないように注意を喚起しながらも大事に見守ってやりたいものです。

この日の作業では、2番目の池の辺りで茂りすぎたアザミを伐採、伐った後は玉切りして工作でクを切る時の台にチェーンソーで加工をしていました。仮設トイレのある広いエリアでは機械刈部隊が午前中にすっかりクなどを刈り終え、子ども達を中心とした班はセイタカアワダチソリ退治とクナギキムシが入った木の穴を塞いで回っていました。この日の花形作業は青年部長率いる竹林整備班で、そこら中に発生した筍を間引き、適度な本数の疎林状態にするのが仕事です。今年は筍の発生が若干遅かったものの、ここ数年見られなかった太い筍が発生しました。竹林を再生するエリアでは久々に太い筍は優先的に残し、細いものは次々と刈り取っていく…という作業のはずだったのですが、様子を見に行くとちっとも筍が刈られていません。見てみると、筍刈りをそ



っちのけにしてクを伐っています。時期は竹秋、古いクの葉が枯れ新しい葉に置き換わるので竹林のクの葉は全体に黄色くなっています。中に全く新しい葉

が付いていないのがあります。それらのクの枝先は一見花が咲いて枯れたように見えます。一時治まっていたテングス病が再発生したようで、花のように見える異形の葉が巻いた中には黒いテングス病の原因菌糸の胞子と見られる物が詰まっております。刈る者の頭上に降り注いでいます。青年部長他はこうした現況に、筍を刈ることを中断して枯れたクの除却に全力で取り組んでいたわけでした。一方、足の関節の痛みで自らは作業に参加できない方は、今、筍を刈らねばクが堅くなり作業量が増えるとやきもきしていましたが、目の前に枯れたクを見てしまっただけで、こちらに専念せねばならなかったようです。午後にも、筍刈り応援に出た親方や亀仙人も連中の熱意に捕まり、クのみが細々と筍を刈ることになりました。

お昼は筍尽くし、筍御飯に木の芽和え、筑前煮、蒸し焼き、筍の入ったチンジャオロースなどとビール肴には最高でしたが、この日はオチが参加していなかったのかお昼をそこそこに終え、午後の作業に復帰しました。

7月28日(水曜日)週日活动 森の居酒屋は7月7日 午後7時頃～

7月10日(第2土曜日) 9時～(遅刻可)

主 催 者 : 遊 林 会

連絡先: 東近江市 花と緑の推進課 Tel 0748-20-5211 Fax 0748-20-5210 当日連絡先: 携帯(丸橋)090-3352-3163

Eメールでも、ご意見をお待ちしています。E-mail: ikimono@e-omi.ne.jp

第4水曜日は朝から梅雨らしく激しい雨が降り、さすがにこれは誰も来ないかなと思っていたら、そこはやはり遊林会。炭焼き名人の S さんを先頭に、梨作りもされている A さん、草刈り名人 F さんの 3 人の姿が見られました。9 時を過ぎても雨脚は相変わらずのため、予定していた刈の伐採作業を中止してテント下で出来る作業に変更です。森には、鋼線を巻くのに利用されていた木製ドラムをいくつか頂いており、これを子どもたちの工作台として使うことが多いのですが、これは天板に当たる部分にボルトの頭が飛び出ているため安定が悪く、使い勝手が悪かったのです。そこで、垂木を適当な長さに切断して底面に固定することで、ガタツキを無くすという作業を実施しました。木製ドラムは円形のため立てて転がしながら移動するのですが、遊林会に来た子どもたちはたまに玉乗りのように乗って、ドラムを転がしながら遊んでいます。そんな話をすると F さんは「子どもの頃の悪ガキ友達は、学校帰りに空き地に置いてあったドラムを拝借して、家まで 2 ～ 3km の道のりをずっとドラムに乗って帰りよった！」とのこと。今ではそんなことなかなかできませんが、悪ガキじゃなくてもやってみたくなる冒険です。ドラムの作業はあっという間に終わり、次の作業は夏休みに子どもたちを連れて行くやまの子キャンプの薪づくりです。森で枯れてしまった杉などの木を細割りにする作業ですが、枯れた杉は刈の巣になってしまっている場合も多く、チェーンソーで切ると黒だかりの刈がわいてくることもしょっちゅうです。しかしそれでもお構いなしにチェーンソーで切り時で割っていきました。午前中の作業はあっという間に終わり早めにお昼ごはんを頂くことになったのですが、昼食班の手際がずいぶん良くて既にテーブルには 10 品！もの料理が並び、総勢 10 人で贅沢な昼食を楽しませて頂きました。スタッフは午後から作業は中止の予定だったのですが、S さんたちにそんな気はなく、午後からは長いカマ（サギナトギ）を持って堤防沿いの竹退治に出かけられました。人数は少なくとも、充実した作業日でした。

☆6月の木ままクラブ

気軽に気ままに木曜日に活動する木ままクラブ。6月は2回の活動を行いました。

6/3 10 人 初めて新型チップperを使った作業を実施しました。刈などの枝葉をチップperにかけ、屋外トイレ横の道にチップperを敷きならしました。並行して、ハヨ池から森に入る道沿いのサを機械刈りしました。

6/17 11 人 引き続きチップper作業。既に切っている木や草をチップperにかけ、道に敷きました。

7月は1日、15日、22日が活動日です。

☆河辺いきものの森スタッフルーム情報

やっと森林環境学習「やまのこ」の1学期分が終わりました。とりあえず、19回、763人の対応です。滋賀県の4年生がほぼ全員、山の学習をするという県の事業で、その委託を受けています。つい最近、中学生になって体験学習で来た子どもたちが、やまのこに来た！という話をしていました。小学校、中学校とつながりのある学習をすることで、より深い体験学習や、より詳しく地域の自然を知ってもらえると思います。また、この間は小学校時代から森に遊びに来ていた女の子が高校生になって、彼氏を連れて森デート（！）に来てくれました。ちなみにその時は竹のお箸作りを手伝ってもらいました。ノギリとサがデートの道具か…と思いながらも森デートは盛り上がっていました。そんな新しい（？）森の利用も増えつつある森です。

☆湖東信用金庫さんに感謝状贈呈

東近江市に本店を構える湖東信用金庫さんは2002年に森が正式オープンする前の2001年から毎年、奉仕作業としてこの森の保全作業をいただいています。当初“ことしん”さんから「奉仕作業として何かゴミ拾いでも…」との申し出を頂いた時、武藤が「ゴミ拾いもありがたいが、今里山では竹林が大変なことになっているのでそちらの作業をお手伝い頂ければ助かる」と言う、理事長を先頭に草刈り機持参でサ刈りやサ刈りを実施して頂いたのです。以後、毎年サ刈りや刈の伐採などに来てくださり、これまで延べ650人以上の職員さんが作業に参加してくださっています。しかも奉仕作業だけではなく、毎年遊林会にご寄付を頂いており、この寄附金を利用して毎年プロのクラシック奏者を招いたクリスマスコンサートを開催することができています。今年、この作業が10年を迎えたことを契機に遊林会から感謝状を贈呈しようと、自慢のリスなどの記念品とともに感謝の気持ちを伝えました。企業の奉仕活動は数あれど、全国でも10年にわたって里山保全活動をしている企業はあまり例がないのではないのでしょうか。ことしんさん、これからもどうぞよろしくお願いいたします。

☆7月の作業日、午後は発足記念日

7月の午後は、13年目に入る遊林会の発足記念の日として、雨が降らなくてもコミュニケーションの時間です。この日はお昼の延長戦が堂々と許される日ではありますが、くれぐれもお帰りの手段を確保してご参加下さい。いつもの名画鑑賞会も実施の予定です。

容器やコップは数に限りがあります。食器の持参をお願いします！